

やく ねん まえ せ かい はげ うご じ だい  
約 120 年前、世界が激しく動いた時代。

ゆめ り そう お  
夢や理想を追いかけ

にほん せ かい か めく  
日本や世界を駆け巡った

あつ きょうだい  
熱き兄弟たちがいた。

みや せま けい だい  
宮崎兄弟  
と 孫文の友情物語

夢

翔ける



あら お し  
荒尾市  
みや ざき ぎょう だい せい か  
宮崎兄弟の生家



みやざきぎょうだい せんぶん ちゆうしゆうものがたり 120 かげ  
宮崎兄弟と孫文の友情物語『夢翔ける』

平成 28 年 12 月 制作

発行：荒尾市

編集：荒尾市教育委員会

あら お し  
荒尾市

あら お し ちゆう えん きん ぶん かつ しょう じぎょう  
荒尾市ふるさと応援寄附金活用事業

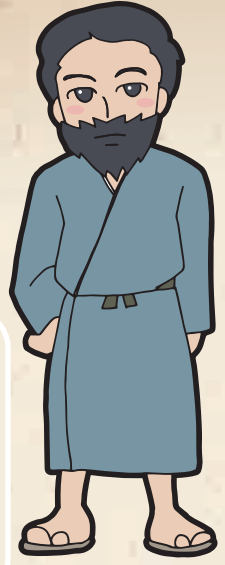
宮崎兄弟と孫文の友情物語

宮崎兄弟とは、今から100年ほど前の明治時代に活躍した宮崎八郎、民蔵、彌蔵、寅蔵（滔天）の4人のことです。彼らが生きた時代は、日本を含め、世界が激しく動いた時代。この時代のなか、兄弟たちはそれぞれの夢や理想のために日本や世界を駆け巡りました。

**民蔵**

(宮崎家十八男)

土地復権を  
生涯の使命とした哲人。



父・長蔵と兄・八郎が早くに亡くなったため、16歳で家を継ぎました。貧しさに苦しむ農民を助けるために、仲間を求めて「土地復権同志会」をつくりました。1912年には同じ考えを持つ孫文がつくった国・中華民国に自分の目標の実現をみて、弟・滔天とともに孫文の革命運動を支援しました。

**滔天**

(宮崎家八男)

孫文を助け、  
革命に身をささげた人。



兄達の意思を継ぎ、彌蔵とともに、中国革命を目指します。同じ理想を持つ孫文と出会い、革命に対する熱い思いと固い友情を育みました。1901年に滔天が書いた本『三十三年之夢』は、まだ広く知られていなかった孫文の存在を多くの人に伝えるきっかけになりました。その結果、中国同盟会がつくられ、辛亥革命の成功へとつながりました。

**八郎**

(宮崎家二男)

自由民権に散った  
天性の革命児。

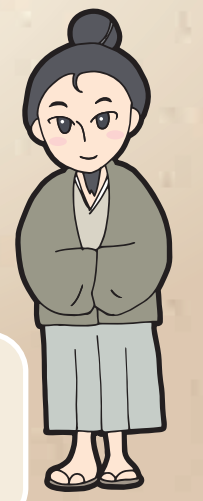


みんなで国を治める「日本」を目指して活躍。1877年に西南戦争が起こると、仲間たちと熊本協同隊をつくって参加しましたが、1877年4月6日八代萩原堤で戦死（27歳）。自由と平等を愛する兄弟の精神の原点となりました。

**彌蔵**

(宮崎家七男)

理想の国を  
中国革命にみた思想家。



ヨーロッパなどの強い国に負けないように、中国で革命を起こして、理想の国をつくることを目指しました。弟・滔天とともに横浜の中国人街で活動していましたが病気になる、29歳の若さでせくなりました。

みやざききょうだい そんぶん  
 << 宮崎兄弟と孫文のつながり >>

とうてん そんぶん はじ し  
 滔天、孫文を初めて知る

1897年6月、民蔵は滞在先のアメリカで読んだ英字新聞で孫文を知り、その記事を荒尾に送り、滔天に孫文の存在を伝えた。その後、アメリカから、孫文との連携を説く手紙を滔天に出した。



滔天  
 とうてん

とうてん そんぶん はじ あ  
 滔天、孫文と初めて会う

やぞう し ちん  
 彌蔵と知りあった陳少白の紹介で、1897年9月に孫文と横浜で出会うこととなる。

そんぶん どうし かくめい しょうがい  
 孫文の同志として革命に生涯をささげる。孫文は、日本国内での資金・武器調達に関する全権委任状を与えるなど、滔天に大きな信頼を寄せた。



民蔵  
 たみぞう

たみぞう そんぶん  
 民蔵、孫文の民生主義に影響を与える



彌蔵  
 やぞう

やぞう こうどう  
 彌蔵の行動が滔天と孫文を結び付ける

たみぞう と ち じん るいきょうつう  
 民蔵の「土地は人類共通の財産」という思想は、孫文の民生主義に少なからず影響を与えた。滔天と共に孫文を支援し続け、孫文の最後の病床を見舞うことを許された4人の日本人のうちの1人となった。



孫文  
 そんぶん

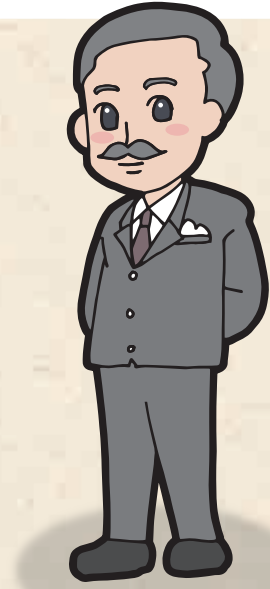
やぞう ちゅうごく かくめい  
 彌蔵は、中国での革命から全アジアの自由民権革命を目指し、まずは中国人になりきろうとして、髪を結び、名前を管仲甫と改め、横浜の中国商館で働いた。そこで、孫文と同志である陳少白と出会った。

孫文  
 (1866~1925)



貧しい人々を救うために立ち上がった中国の革命家。

まず、貧しさに苦しむ人々を救うために国を変えようと、革命を目指しました。日本で滔天と出会ったことをきっかけに、革命を志す仲間たちと中国同盟会をつくり、この同盟会を中心として、1911年10月10日に武昌で起こした反乱に成功し、辛亥革命を成功させました。そして、中華民国という新しい国をつくり、そのトップとして臨時大総統になりました。1925年3月12日に59歳でせくなりましたが、滔天・民蔵との友情は最後まで続き、「革命におこたげざる者は宮崎兄弟なり（革命に力を尽くしてくれたのは宮崎兄弟である）」と語ったとされています。





革命前の中国は清とい  
長い間皇帝の一族が国を治める  
王朝政治が続いていました

眠れる獅子(ライオン)ともいわれ  
中国は世界中から  
恐れられていました…

しかし一八四〇年、

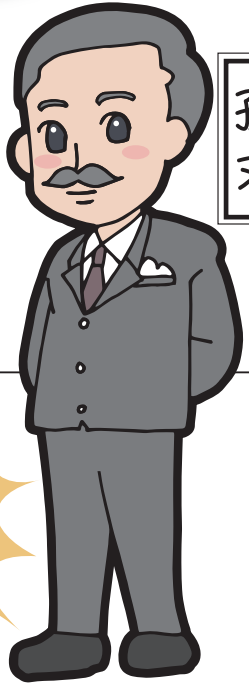
中国とイギリスの間で起こった  
アヘン戦争で清が  
敗北したことにより  
中国はその強さと威厳を  
失いました

この後、中国を脅威ではないと  
感じた様々な国が  
その広大な土地を手に入れようと  
次々に侵略を始めました

そして…  
中国国内は荒れ果て  
人々の生活は次第に苦しく  
なっていくので



孫文 そんぶん

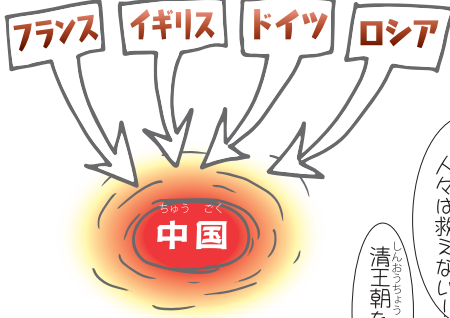


そんな中国を変えようと  
立ち上がったのが  
孫文でした

今の清王朝では  
人々は救えない

清王朝を倒して

新しい  
中国を  
つくろう！



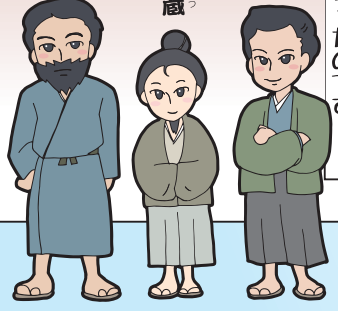
革命を恐れた清王朝は  
その中心にいる孫文を  
「指名手配」としました  
孫文は中国を追われ  
様々な国に  
身を潜めました

その最中に立ち寄った  
日本で出会った人物こそが  
宮崎滔天だったので

宮崎八郎 みやざきはちろう

宮崎彌蔵 みやざきやみぞう

宮崎民蔵 みやざきたみぞう



まずは中国で  
革命をおこなうことが  
世界全体を良い方向に  
導くことだと  
考えていました

父や兄の影響を受け  
当時の日本や中国の状況を  
なんとか変えたいと  
思っていた滔天は、



中国を改革したいという  
思いを持って  
出会った二人は  
すぐに打ち解けました

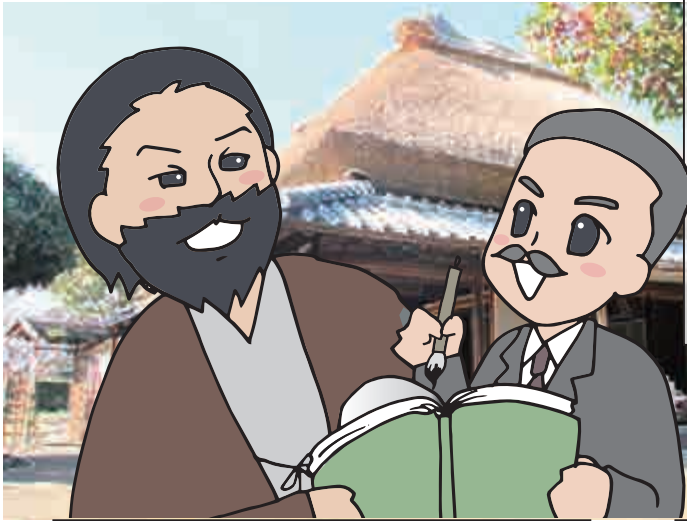
滔天は孫文を荒尾の  
自分の生まれた  
家がかくまい  
日本の有力者に紹介し  
革命に必要な  
武器の入手や運搬など  
協力を借しおこなった

あざな



みやざき とう てん  
宮崎滔天

孫文が荒尾に滞在している間、二人は革命について熱く語り合いました。



そして滔天は革命に捧げた自分の半生を一冊の本にまとめました



その本が「三十三年之夢」でこの本の中で滔天は孫文というすごい人物がいるという事を紹介しました



この本は多くの人に読まれ翻訳され、海を渡り中国大陸へも広まっていきました

滔天と民蔵の妻は突然来訪した中国(外国)の革命家に戸惑いながらも、

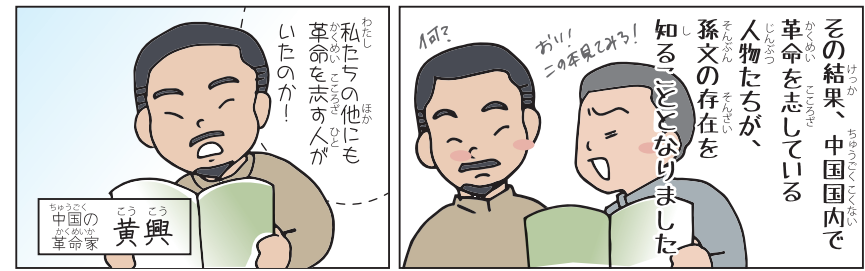
ありったけの「馳走」で孫文をもてなしました



その結果、中国国内で革命を志している人物たちが、孫文の存在を知るようになりました

私達(他)にも革命を志す人がいたのか!

何? 二の巻をみろ!



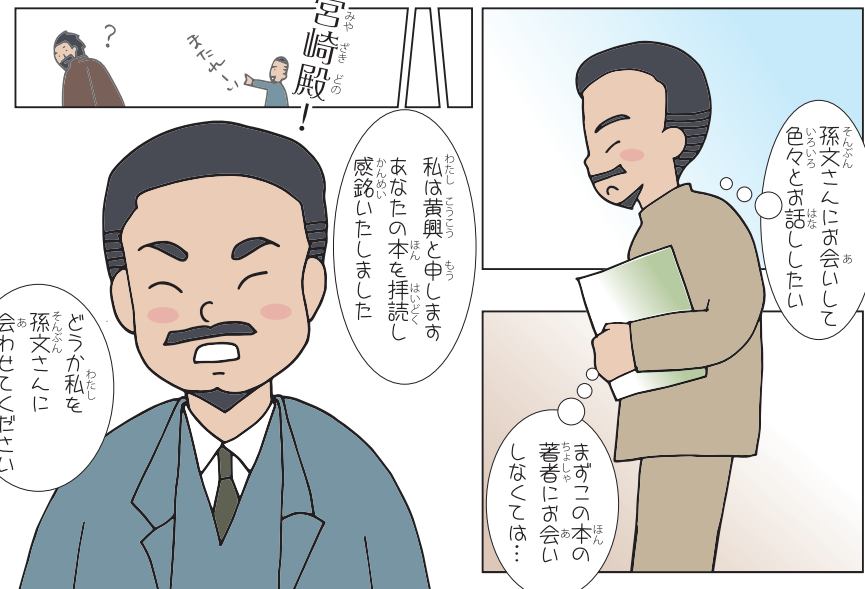
孫文さんにお会いして色々とお話したら、

私は黄興と申しませう、あなたの本を拝読して感銘いたしました

宮崎殿!

さうかわたし、孫文さんにお会いしてあげたい

孫文さんにお会いしたくて...



また、孫文は民蔵の本棚に並ぶ本に読みかけり:

ここにあげるの、僕の好きな本ばかりだ!

帰るときにはカバンいっぱいにつめて持って行ったそうです





# 辛亥革命

1840~42年にイギリスとの間で起こったアヘン戦争や  
1894~95年に日本との間で起こった日清戦争で中国は敗れました。

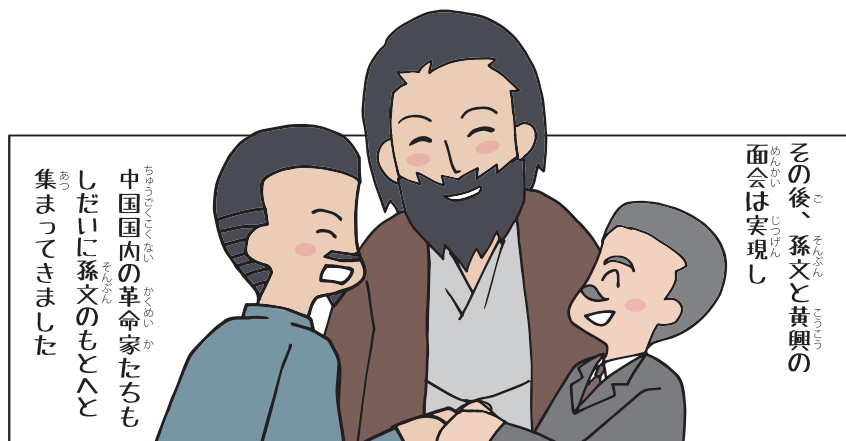
この結果、当時の中国を治めていた清王朝に対する不満が中国国内で高まり、新しい中国を目指す人々（革命家）が現れました。孫文もその一人で、1905年には、同じ志を持つ人々が集まって、孫文を中心に、革命団体・中国同盟会がつくられます。

そして、革命の雲気が高まった1911年10月10日、中国の武昌での蜂起を始まりとして、周辺の省が次々この動きに続き、1911年12月29日、孫文は南京で臨時大統領に選ばれ、中華民国が成立しました。

翌1912年、皇帝・宣統帝が退位したことで、約270年に及ぶ清王朝が滅亡。これは、古代から約4000年続いた王朝政治の終わりともなりました。

# 三十三年之夢

1902年、滔天が革命に捧げた自分の半生を記した本。この中国語の翻訳本が翌1903年に刊行されたことで、革命家・孫文の名が中国の革命家たちの間で知られることにつながりました。やがて孫文のもとに中国の革命家たちが集い、1905年の中国同盟会の結成のきっかけになりました。



その後、孫文と黄興の面会は実現し

中国国内の革命家たちも  
しだいに孫文のもとへと  
集まってきました



1911年撮影

そして：孫文を中心とした中国革命運動の輪は瞬く間に広がり  
一九〇五年「中国同盟会」が  
結成されました



そしてこの「中国同盟会」が中心となり  
一九一一年十月「辛亥革命」が起こり  
清王朝が崩壊したのです

本当に君には感謝しても  
しきれないよ...

まだだ！  
まだ終わってない！  
俺たちの描く世界はまだこれからだ！

衣あ...  
行こう！

孫文の夢...



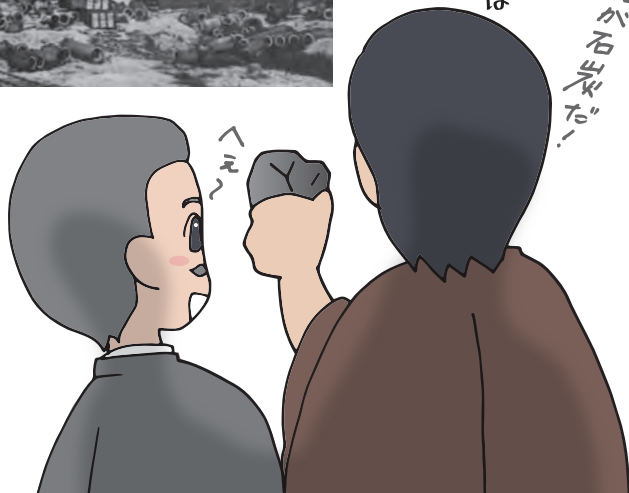
翌一九二二年一月一日、  
孫文を臨時大總統  
とする中華民国が  
南京に成立しました



その後、大總統の座を退き  
「全国鐵路総弁」となった孫文は  
中国工業の近代化を  
推し進めるための視察として  
再び日本へ足を運んだのです

「これが日本だ！」

中国の英雄として  
日本各地で歓迎された  
孫文の傍らには  
滔天もいました



# 中国同盟会

清王朝打倒を目指す革命団体で、1905年に東京で結成されました。孫文の興中会、黄興の華興会、章炳麟の光復会などの革命団体が集まって結成されたもので、日本への留学生を中心として、知識人、会党、新軍兵士、華僑などが参加しました。

## 興中会



孫文  
(1866～1925)

## 華興会



黄興  
(1874～1916)

## 光復会



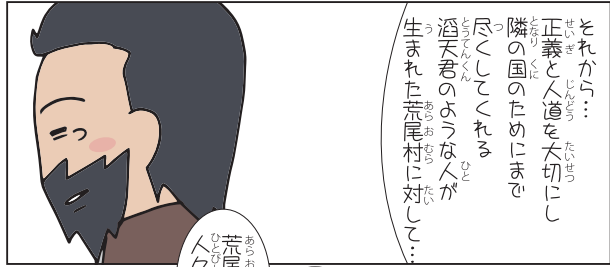
章炳麟  
(1869～1936)

中国の南部・湖南省の出身。1901年に留学生として来日し、革命を志す同志たちと積極的に交流しました。1903年に秘密結社・華興会を組織し、その総理となりました。

革命運動を進める中で滔天の「三十三年之夢」などをきっかけとして孫文の存在を知り、1905年にも中国同盟会を組織、革命蜂起の総指揮をとるなどの役割を果たしました。

滔天とは個人的にも深く付き合い、息子の黄一欧を滔天家に預けました。黄興の記した扁額『達観』は宮崎家と黄興との交流を表す一品です。





それから…  
正義と人道を大切にし  
隣の国のためにも  
尽くしてくれよう  
滔天君のような人が  
生まれた荒尾村に対して…



そして、それは両国の  
未来の発展と  
幸福に繋がること  
私は信じています



敬意を  
表します！

それから100年  
滔天と孫文の友情は  
今なお語りつがれて  
いるのです



1913(大正3)年、孫文来荒時に撮られた記念写真



その時孫文は  
友人である滔天の家を  
再び訪れたのです

どうも  
こんにちは

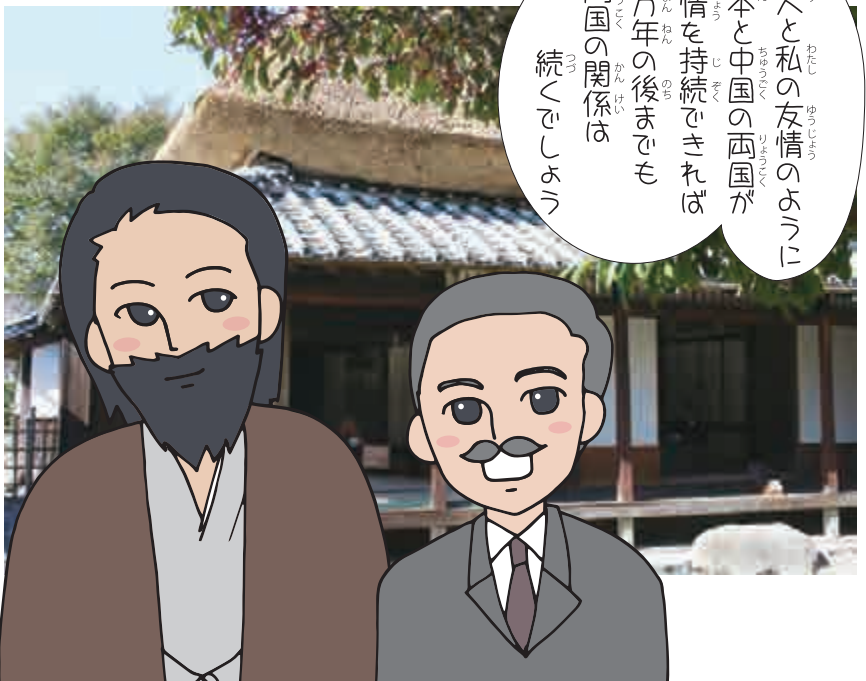
孫文さん!  
いらっしやい!!

十七年ぶりに  
荒尾に来ました…

彌蔵君と

滔天君とは  
長い付き合いなので…

二人は我が国のために  
大変尽力してくれました



二人と私の友情のようには  
日本と中国の両国が  
友情を持続できれば  
千万年の後までも  
両国の関係は  
続くでござろう



みやざき きょうだい しりょうかん  
宮崎兄弟資料館

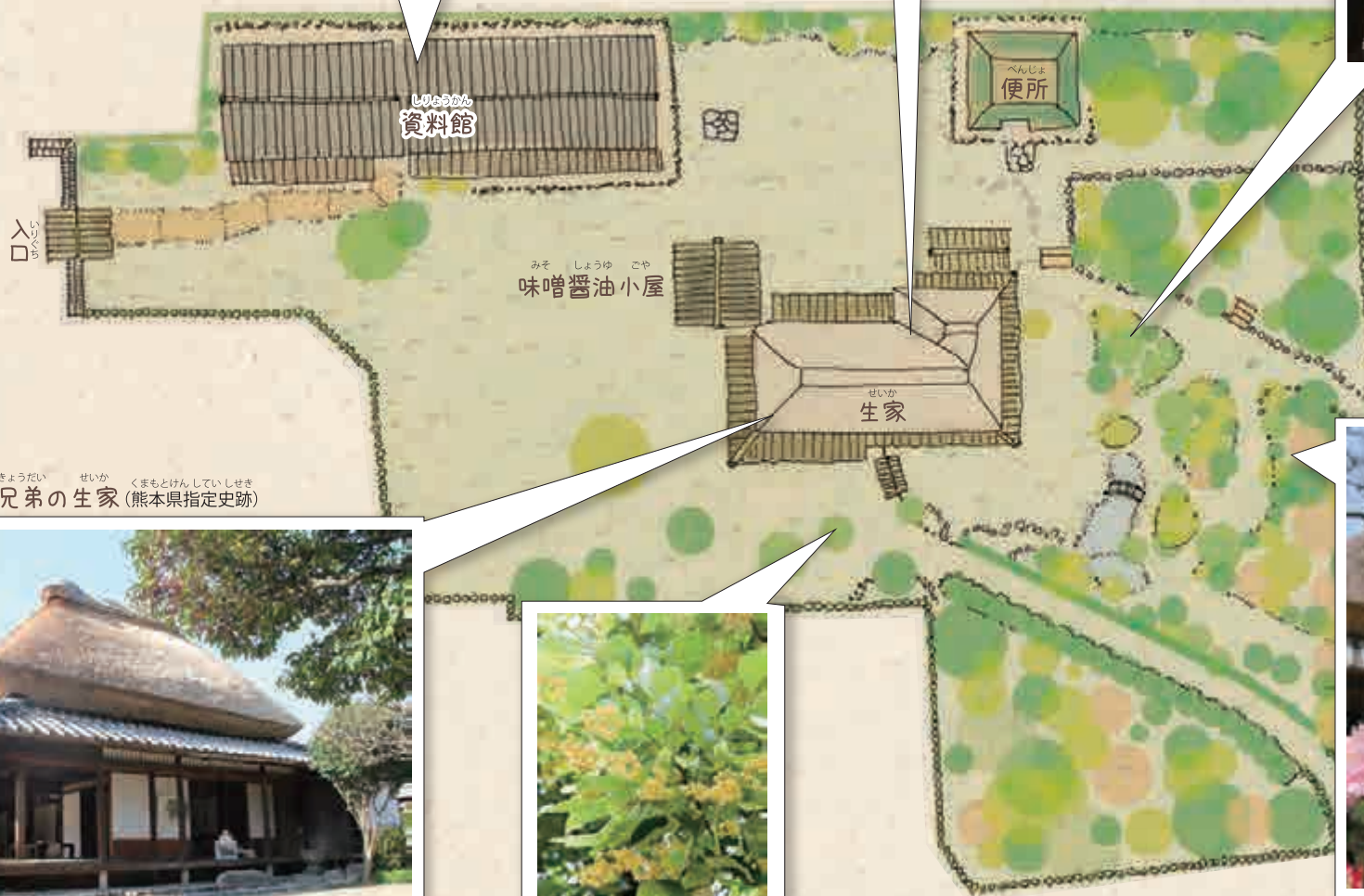


とうてん そんぶん ひつたん ふうけい  
滔天と孫文の筆談風景



ゆうじょう うめ き  
友情の梅の木

みや ざき きょう だい  
せいか かし せつ  
生家施設  
みと す  
見取り図



みやざき きょうだい せいか くまもとけんしていしせき  
宮崎兄弟の生家 (熊本県指定史跡)



ぼだいじゆ  
菩提樹



ぼたん  
牡丹

# 【ゆかりのある施設】

そん ぶん き ねん かん  
孫文記念館 兵庫県・神戸市



1984年に開館した、日本で孫文を  
顕彰する記念館。もとは神戸華僑・  
呉錦堂の別荘で、1913年に孫文が訪  
問した施設です。

あい ち だいがく どう あ どう ぶん しょ いん だいがく き ねん  
愛知大学東亜同文書院大学記念センター 愛知県・豊橋市



孫文の支援者であった山田良政・  
純一郎兄弟が残した孫文や中国革  
命に関する史料を多く所蔵してい  
ます。辛亥革命100周年にあたる  
2011年にはNHKの取材班が撮影に  
入り、史料や展示室がテレビで放  
映されるなど、メディアにも注目  
されている施設です。

なが さき きん だいがく りゅう し そん ぶん うめ や しょう きち  
長崎近代交流史と孫文・梅屋庄吉ミュージアム 長崎県・長崎市



孫文と、彼を生涯にわたり物心両  
面で支え続けた長崎県出身の実業家・  
梅屋庄吉との国境を越えた友情の歴  
史などを紹介する施設です。

# 【史料紹介】



そん ぶん へん がく ぼく あい こう じん  
孫文扁額「博愛行仁」

民蔵にあてて書かれ、宮崎兄弟生家に遺された孫文の扁額  
で「広く平等に人を愛する」という意味です。孫文は「博愛」  
の二文字を好み、求められるとよくこれを書いたといわれま  
すが、この扁額は「博愛行仁」であり他には見られず、宮崎  
兄弟との深い交わりを表すものと言えます。

かく めい か どう し よせ が  
革命家同志の寄書き

こう こう かく めい か  
黄興をはじめとした革命家

たちの署名や言葉が記された  
掛軸。

何回にもわたって書かれた  
ものと考えられ、滔天の家を  
訪れた中国の革命家たちが  
次々に書いたと伝わっていま  
す。

とう てん おお ちゅうごく かく めい か  
滔天が多くの中国の革命家  
たちと交流していたことがわ  
かる史料です。

